

愛染のから

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

渋谷凛を、
知ってますか？

負けました、
しぶりん、
好きです

素直に
押しです

かっこいい
よねー！！

もちっしょ
めっちゃ
好き！

そう、
今や誰もが
知っている
人気アイドル

凛々しい歌声、
独特な魅力の
落ち着いた
雰囲気容貌

まさに
クールな
アイドルの
鑑とも
言えよう……！！

だが!!
実際は
違うのだ!!

「んんん」
凜!!

お前また
こんなん
下着
事務室に
置きっ放しに
しやがって!!

あっ!!
「んんん」
あつんだ!!

衣装替
えてたら
なくなっ
ててきー!!
困ってんだ

メンゴ
メンゴ

もい

もい

何をどうすれば
更衣室でもない
こんなところに
転がってるんだよ

てか、じゃあ
今はいてない?!
そんな短い
スカートで?!

頼むよ:
仮にもクール
アイドル
なんだろ?
こんな事漏れ
たりしたら:
そもそも
アイドル以前に
女の子として
どうなんだよ
これ:

…って
おーい!!

早速二こで
パンツ穿くのは
やめろおお!!

ちようどいい
タイミングで
人来たら
どうすんの!
そもそも
人の前で堂々と
パンツ穿くとか
おかしくない?

え…?
ダメ?!

もう
遅いから
人來ない
だろうし…

場所変える
だろ普通!!
せめてトイレ
行くとか!!

もう何度も
全部見たでしょ?
だから平気:
だけど…私は

それに
プロデュー
サーはその…
彼氏だから…

ええ…
でも…

そそるん
だったら
今一発
キメとく?

あ、
あのさ…

ドキ
ドキ
ドキ

また
そうやって

何でそう
なるんだよ!!
今そんなこと
出来るわけ…

付き合っ
てから1年…
やっと
私たちは

体を重ねる
関係にまで
発展した…

うおおおおお!!

ズッ
ズッ

でも…

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ







多すぎる…

彼女との記憶が
至る所に
溢れている

その肌の
温もりが
未だに
感じられる

その笑顔が
瞳に焼き付いている

その声が
耳元で囁いてる

日々の
生活が…
人生
そのものが…
彼女との
記憶で
満ち溢れている

消えない
記憶
消せない
思い出

私のことは

忘れて
ください

ないだろ!!

忘れ
られる
わけ…



大丈夫
だから…!!

結局また
同じ結果だ

私のせい?
私が下手だから
上手く行かない
つて言うの?

私なりに
色々勉強して
いるつもりなの…!!

今日も帰って
オナニかあ…

いつも途中まで
だから…
二度でも一緒に
最後まで行って
みたいよ

でもそれは…

きっと
プロテューサーも
同じ…
なんだと思う…

私は…

どうすれば
いいの?



彼は
喜ばせ
ないよ

そんな
じゃ…



ズルいよ…





私は無理矢理
割り込もうと
しているだけ

知っているよ…
もう知っている



あなたは
理想の姿の
ままで
永遠に
彼の中で
生きている



だって貴女はもう
居ないんだもの

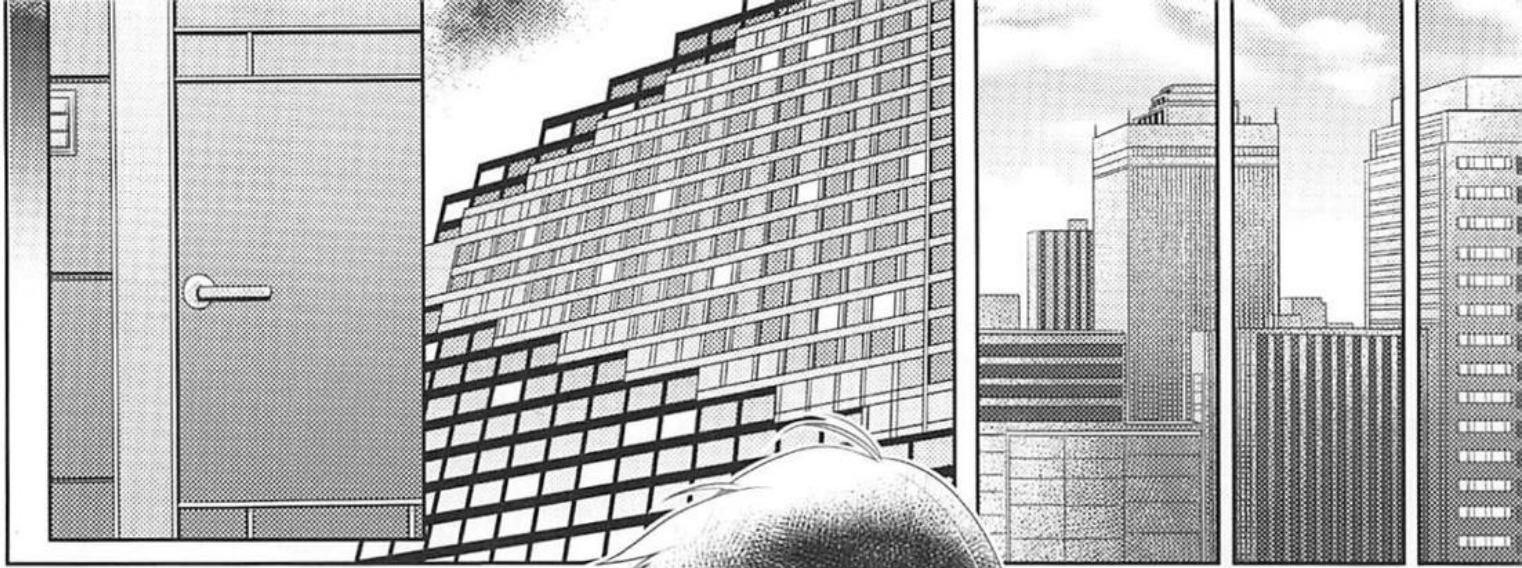
私が何をしても…
どんなに
頑張っても

居ない人には
適わない…
勝てないよ…



彼は私なんが

ちっとも見えていないって事を



別れよう



アイドルと

なに
言ってるの？



最初から
無理が
あったんだ

え？
待って…

そもそも
ダメだろ
こんな関係



え…っ？

前から
思ってたし

やめて！

やはり
こういうの
よくねー
なって

それ以上
話さないで

そんな言葉は
聞きたくない！

今な
まだ
間に合うと
思う

私を捨てないで！



お願い…
最後で
いいから

一緒に
居て欲しいよ



結局断れずに
こんな所に来て
しまった…

彼女は
何を考えて
いるのだろう

お待たせ





なんて格好
してるんだ!

なんのマネ
なんだよ!!



なっ...!!



知ってるよ
プロデューサー...
加蓮のこと...
忘れられないって事

私のこと
別に好きでも
ないって事も



私は別に
それでも
いいよ

ただ...
プロデューサーの
心を少しでも
癒してあげたいと
思ってるだけ



せめて
姿だけでも
あの子に
近付けたから

あの子だと
思っ
て
代わり
に
私を抱いて...



私を愛して
とは言わないよ

加蓮の
代わりになんて
なれないかも
知れないけど



それでいいんだ

でも
それで

こんな姿でも
加蓮を思い
出さなくて
いいかな



私との時は
長く時間
かかるのに...

加蓮だと
すぐこう
なっちゃうんだ...



あ...すごい...
もうこんなに...



ここに私はいないんだ



愛されないのは
悲しいけど



愛する人の
寂しい顔を
見るのは
もつと悲しい

なぜだ！

髪の毛と制服を着ただけ…

近くで見たら
そんなに
似てもないのに

なぜこんなに
激しい感情になる

なぜこんなに
興奮する

こんな
一生懸命な姿を
見せられたら

うっ…
もう我慢
できない!!

このまま出すよ!!
強く吸ってくれ!!

くわッ

ジュッ

出る!!
加蓮!! ああーっ!!

すごい!!
これが男の精子!!

臭い!!
変な臭い!!

口の中に
どんどん
入ってくる...
吐きそう...

んん...!!

ん...!!

でも彼がくれた
初めての精液

処女じゃないけど
精液受け止めるのは
初めてだから...

しっかり全部
受けとめなま

加蓮はいつも
こうやって

彼を自分の中に
受け入れてたんだね

嬉しい…
やっとイッて
くれた

まだ
足りないよ

まだこれから
じゃないか

いつもの
ように
行こうな

〇 いつもって…
加蓮との
ことだよ

うん、じゃあ
次はこっちの
番ね

挿れて…

あなたのを
全部欲しい

もっと
もっと

私の中を
いっぱいこぼして

はなこ♡

加蓮!!

加蓮!!

ああっ!!
加蓮!!

イクよ!!
中で!!

あ
!!

イクよ!!
中で!!

ド
!!





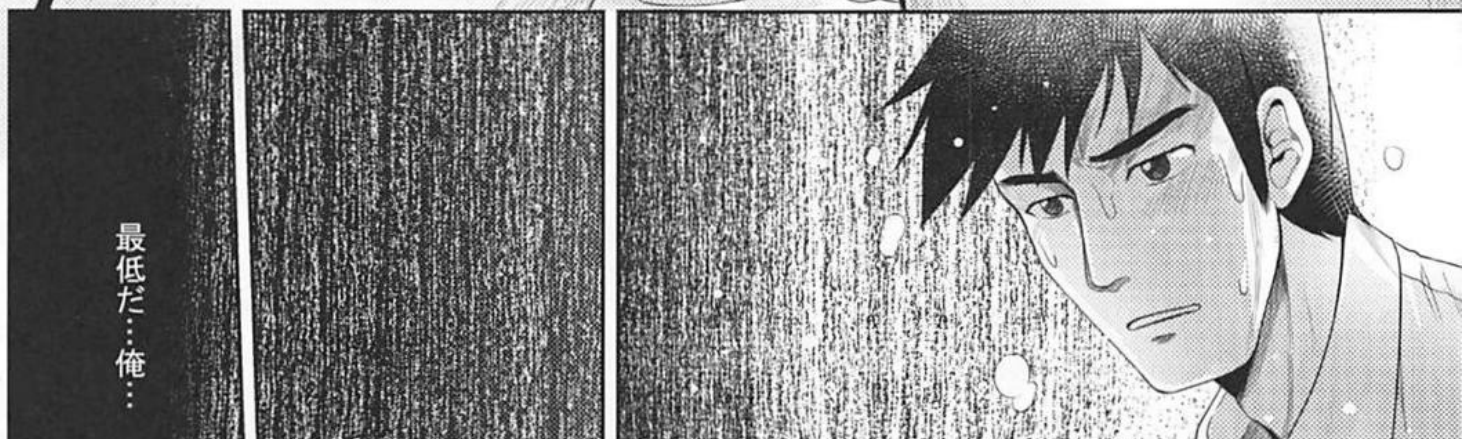
さっ…

はあ…

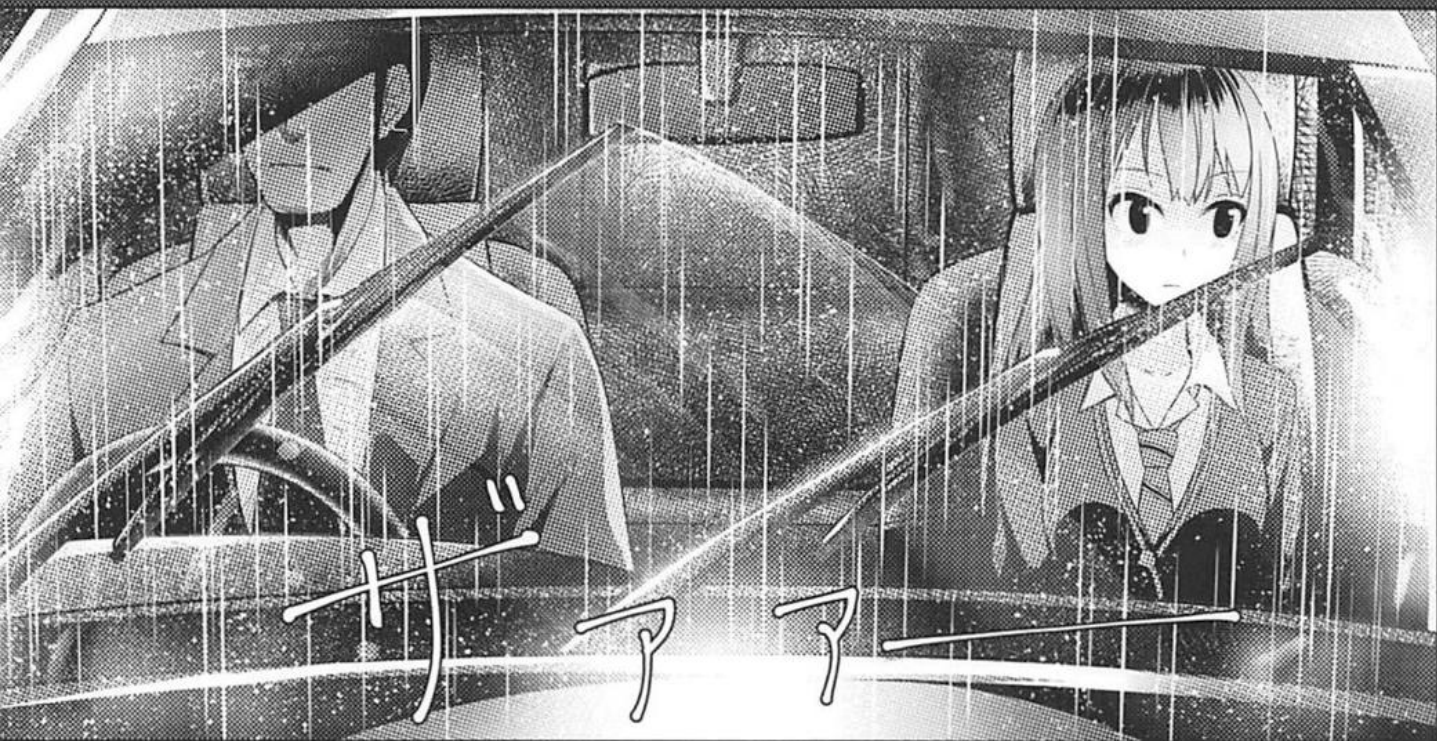
私の中に…

はあ…

はあ…



最低だ…俺…



…え？

これからは…
変って行ける
のかな

大丈夫…
だよ
私たち…

なぜ
なんだ



送って
もらうの
初めて…

近いから
別にいいん
だけど



なのに
なぜ

呆れた
だろ

愛想
尽きた
だろ

こんな最低の
ヤツだ：
もう散々
じゃないか



なぜ
そこまで
する…



……



だって
仕方ない
じゃない

なぜって…



仕方ない
じゃない…

二番目に描いた表紙。
だが結局ボツして最初のを採用…

後書き

この度は本誌を手にとっていただき
ありがとうございます。MKです。
初のしぶりん本です。初のしぶりん
本がこんな内容ですみません。
この物語は加蓮との話シリーズでは
「季節の向こう」の後の話ですね。
とどのつまりには何もかも
ハッピーエンドになると思います。
ご安心ください。(説得力無し)





Tamanejya Presents 2017